

小学生の知名度と利用度についての調査

同志社女大家政 ○西田久美 林淳一 梅花短大 高正明子

目的 前報では30~40才位の主婦が野菜類・いも類(以下野菜という)の料理への利用について報告した。今回はその子供の年代にあたる小学生を対象にアンケート調査を行い、前報と比較して野菜の料理について母親との関係を検討した。また小学生の食生活に別の面から大きな影響を与えている学校給食の中の野菜についても分析を試みた。

方法 前報と同じ50種の野菜についての知名度, どのような野菜の料理をよく食べているか(利用度), どのような野菜の料理が好きか(嗜好)を1986年7月N市とT市の公立小学校6年生73名についてアンケート調査を行った。また彼らが食べている給食献立(1985年4月~1986年3月)について, 野菜別にまた料理名に従って分類集計し前報と比較検討した。

結果 知名度100%の野菜は25種, 50%未満は6種, 利用度50%以上は10種, 10%未満も10種であった。母親がよく作ってくれるという回答が50%以上の野菜の料理は30, 好きな野菜の料理という回答が50%以上は20, 両方に共通する料理は19で子供の嗜好をほぼ組み入れている。給食献立にあらわれる野菜は32種, 記載された料理はのべ1744(献立数321)で, これを10種の料理に分類すると1位は煮物32%, ついで汁物30%, 飯・めん・パン類17%であった。煮物の1位は女子大生, 主婦と同様であるが, 2位の汁物が給食に特徴的である。にんじん, たまねぎなどは主婦, 女子大生と同様出現頻度が高いが, 給食ではにんじんが高いのが特徴である。料理の面から見るとスープ, サラダ, シチューなどの出現頻度が高かった。また, この結果を用いてクラスター分析を行った。野菜の利用の面から見ると, 主婦の固定的な利用よりも女子大生の自由な多方面の利用に近いようである。